建築教育ニュース

1972.11

東日本建築教育研究会

目　　次

1. 会長あいさつ …… 長谷川　光　次 …… 1
2. この一年を顧りみて …… 池　田　寿　男 …… 2
3. 昭和47年度総会、研究協議会、記録 …… 事　務　局 …… 4
4. 昭和46年度事業報告 …… 〃 …… 6
5. 昭和46年度研究会会計報告（決算） …… 〃 …… 7
6. 昭和47年度行事計画 …… 〃 …… 8
7. 昭和47年度会計（予算） …… 〃 …… 9
8. 計画分科会報告 …… 佐　藤　賢　吉 …… 10
9. 構造分科会報告 …… 井　上　　満 …… 14
10. 実習分科会報告（夏期研修会実施報告） …… 山　室　　滋 …… 15

会場総括係	川　本　正　司
受付・会計	三　浦　陽　助
基本実習・木造実習	佐　藤　克　己 三　浦　陽　助
鉄骨造実習	飯　田　三　郎
鉄筋コンクリート造実習	松　本　延　夫
宿舎会場係	渡　辺　英　夫

11. 建築学会九州大会に参加して …… 五十嵐　永　吉 …… 38
12. ニュース …… 事　務　局 …… 42

あとがき …… 44

あ　い　さ　つ

会　長
長谷川　光　次

今年の６月初旬、秋田県で開催されました本会の総会並研究協議会には、東日本の各都県から多数の会員がお集り下さり、ご承知のとおり、盛会裡に終ることが出来ました。これは、とりもなおさず会員の方々の熱意を、切実に示したもので、大へんうれしく、力強く限りに思っています。それにつけましても、秋田県の工業高校の先生方には、一方ならぬお骨折りをいただき、その行届いたご配慮には、お礼の申し上げようもなく、出席した者は、ひとしくよろこび満足して、心から感謝した次第でした。

今年は又、本会の初代理事長である伏見三郎先生が、叙勲の栄に浴されました。先生の斯道におけるご功績と、洒脱なお人柄を知る者にとって、これは当然のことであり、むしろ、おそきに失した感がいたしますが、それはともかく、本会にとって名誉なことであり、私どもは素朴によろこび、先生の今後のご活躍と、本会への相変らざるご指導をお願いしたいと思います。

私はこの夏、横須賀市立工業高校で行われた実習講習会の閉講式に出席いたしましたが、それは８月上旬の酷暑のさ中のことであり、文字通り汗を流して勉強をつづけられた先生方の真摯な姿には、全く胸を打たれてしまいました。夏休み中というのに、７０名に余る参加者があり、４日間一人の欠席も遅刻もなかったということに、その意気込のほどが察せられ、ともすれば暑さのため、くずれそうになっていた私の姿勢を、ぴしっと正される思いがいたしました。会場をお引受け下さった市立工業高校の校長先生を初め、総動員でお世話下さった建築科先生方の物心両面にわたるご援助に対し、あらためてお礼申し上げるものでございます。これは、たまたま私が出席した実習部会企画による講習会の姿ですが、他の分科会も、それぞれの委員を中心に、緊要適切な問題を捉えては研究し、討議を重ねていられる姿は、まことに本研究会にふさわしいものと思います。ご時勢の移り変るにつれて、教育課程や教育法というようなものは、改められることはありましょうが、私どもが変えてはならないもの、それは常にお互に切磋琢磨する姿であろうと思っています。

前会長富塚先生のあとを受けてから一年、池田先生や事務局に支えられ、会員の先生方のご協力を得て、どうやら過して参りました。厚くお礼申し上げます。なお今後ともよろしくお願い致します。

この一年を顧みて

副会長
池　田　寿　男

昨年7月28日の20周年記念式典総会において、会員の皆さん方から副会長におされ、前会長の富塚先生が8月31日に退職されると同時に、正式にこの職についたわけでありますが、それからの一年を、ここで振り返ってみようと思います。

私は前会長の持っておられた、外部的な役割を引受けることになっておりましたので、主としてこの方面のことについて、お話したいと思います。

まづ出席したのが、工高長協会主催の標準テスト委員会でありました。副主査の井上先生（墨田）と、委員として西垣（蔵前）・落合（向の岡）・佐久間（市川）・大西（堺市立）の諸先生方が、既に1・2回の問題作製委員会を終えて、最后の仕上げの段階に入っておりました。でき上った問題をみると、簡単にできるように思われますが、言葉の使い方や、最后の更正まで、なかなか大変な仕事であることをつくづく感じました。

本年度の委員は関東側2名、関西側1名が入れ換って、副主査は五十嵐先生（工大附）と、委員として落合（向の岡）・佐久間（市川）・石井（葛西）・塚口（大阪工大附）の諸先生方となり、現在の段階では、皆さん方から提出して戴いた問題を検討し、最后の仕上げに入っております。

早いもので、この工高長協会主催の標準テストも、本年度で第16回になります。したがって問題も、殆早出尽された感があります。これが又委員の方々の苦心する所でありまして、皆さん方の力を借りて、更に発展させて行きたいと思います。

ついで工高長協会の情報部会の委員の方ですが、これは同会の会報「工業教育」の編集の仕事で、皆さん方に余り関係ないので、省略させて載きます。

さてその次に引受けましたのは、施設・設備基準改訂委員会の委員であります。工高長協会関係の委員は、他に森安（田無）・和田（葛西）・益尾（都島）の諸先生でありますが、何んといってもこの仕事の主役は、原案を作成した本会の計画・構造・施工・製図の各部会の主査を初めとする分科会委員の方達であります。

この仕事は昨年の2学期から始めまして、ご存じのように、今年3月の段階で、第一案ができ上ったわけであります。それは施設においては、旧基準の2・25倍、設備においては6・3倍というものでしたが、本年度一学期末に開かれた合同委員会で、各科共施設は1・5倍、設備は4倍位に押えて、再検討することになり、再改正案では、施設は2,820㎡で1・62倍、設備は

１１９,５３３,９００円で４・１９倍という案になりました。

さて、この産振によるこの改訂案ですが、文部省もようやくこれを取り上げようとしているようでありますが、それ以前に、根本的なことを考えねばという意向もあるようです。つまり在来の基準の焼直しでなく、「先生のためのものでもなく、生徒のための施設・設備を」とか、「興味ある実習を行うにはどうすれば良いか」とかの基本的な発想から始めたいとしているようであります。

建築科の場合、この言葉がそのままあてはまるかは別として、ここまで追い込まれた工業教育の将来のことをも考えて、と言うことであるらしいのです。或いは、もう一回根本的なことから考え直すことになるかも知れません。

終戦直後の工業教育の危機を第一回目とすれば、現在の危機は第二回目と言うことになります。中学からの進学９０％、入試の競争率の低下、そして生徒の多様化等の現象をみると、勿論施設・設備を更に整えなければならないが、我々としても、教科の内容の面で、或いは教育の方法等で、大いに研究をせねばならないと思うのであります。

昭和４７年度総会研究協議会記録

事　務　局

昭和４７年度総会・研究協議会は、４７年６月２・３日の両日、秋田県において開催され、約１６０名の参加者があり盛会裡に無事終了した。

開　催　内　容

第１日　：　６月２日（金）

◎　総　会　　於　秋田市　秋田銀行本店会議室

議　　事

１　会長・副会長の選出

前年度に引継き、会長に長谷川光次校長（横浜市立鶴見工業高等学校校長）、副会長に池田寿男校長（埼玉県玉川工業高等学校長）を理事会で選出し、総会で承認を得た。

２　昭和４６年度　会務・会計決算報告（別掲）

３　昭和４７年度　行事計画・予算案審議（別掲）

以上議事２、３については別掲の通り承認された。

４　富塚前理事長に感謝状を贈呈

昨秋神奈川県立川崎工業高等学校を勇退された富塚校長先生に、本研究会に尽力された功績に対して感謝状と記念品を贈呈した。

◎　研究協議会　　於　秋田銀行本店会議室

本年は来年度から実施される改訂指導要領による教育課程の編成について焦点をしぼり研究討議された。特に会員校から数校を選び教育課程の編成例をあげ、各校の問題点、編成にあたって苦心談などが披露された。さらに文部省関口調査官より学習指導要領の解説書に基づき、工業教育問題点、編成の重点などについて懇切な説明を頂いた。

◎ 見 学 会　　能代干拓村

第2日 ： 6月3日（土）

◎ 研究協議会・分科会　　於 白竜閣（男鹿市）

分科会の研協記録については、別掲各分科会報告を参照されたい。全体協議会において共通問題について協議し、１２時全日程を終了した。

昭和４６年度事業報告

1　創立２０周年記念式典・及記念講演会・記念行事

昭和４６年７月２８日

於　：　東京　社会文化会館

講演会　　講師　　藤本盛久先生

記念行事　　生徒製図作品展

於　：　東京渋谷西武デパート

昭和４６年７月２２日より２週間

2　総会・研究協議会

昭和４７年７月２９・３０日

於　：　神奈川県箱根町　湯の花ホテル

主協議題　　「新学習指導要領による建築教育の問題点教育課程の編成」

3　見学会　　７月２９日　第一生命相互保険大井松田本社

4　施設・設備基準改定案の作成

5　理事会　　９回開催

6　教材委員会　　建築法規学習書の改訂

7　刊行物　　２０周年記念誌　　建築教育ニュース

昭和４６年度研究会会計報告（決算）

1　収入の部

	予算額	収　入	備　　考
昭和４５年度繰越金	0	0	
昭和４６年度会　費	95,000	93,000	９３校分
ワークブック印税	90,000	76,131	
賛助会補助	255,000	255,000	
雑　収　入	20,000	22,436	助成金・寄付金利子
計	460,000	446,567	

2　支出の部

事業費			
総　会　費	180,000	180,000	会場費補助・講演会・見学会・資料費
資料収集費	80,000	58,950	資料作成印刷代・ニュース
視察出張補助	30,000	28,440	近畿工高建築連盟大会・参加補助
分　科　会　費	60,000	60,000	@1500×4
運営費			
役　員　会	20,000	21,180	役員会茶菓代
交通通信費	45,000	42,175	切手・はがき・交通費
事務手当	5,000	5,000	
雑　費	20,000	19,232	事務用品その他
予備費			
予　備　費	20,000	3,000	
計	460,000	417,977	
	差引残	28,590	昭和４７年度へ繰越

昭和47年度行事計画

1　総会・研究協議会

日　時　：　昭和47年6月2日・3日

場　所　：　秋田市・男鹿市（白竜閣）

主議題「建築科教育課程の編成について」

2　講習会・見学会

日　時　：　昭和47年11月下旬

場　所　：　東京都を中心として

講習会・見学会　　東京国際空港の建設及見学

3　夏季講習会

日　時　：　昭和47年8月2・3・4日

場　所　：　神奈川県を中心として

講習会テーマ　　「施工実習の指導法及実技講習」

4　理事会・委員会

理事会　：　年8回開催

委員会　：　各分科会（構造・計画・製図・実習）

教材・資料の作成及設備基準改訂案の作成

5　分科会委員　（※主査）

計画部会　※佐藤（小石川工）　山田（関東商工）　山県（神奈川工）　中村（小石川工）　中村（東工大付工）　志村（小石川工）　本田（川越工）　大庭（小田原城北工）　和田（葛西工）　高山（蔵前工）

構造部会　※井上（墨田工）　堀越（小石川工）　古谷（田無工）　福馬（大宮工）　佐久間（市川工）　宮島（安田学園）

実習部会　※山室（神奈川工）　関田（熊谷工）　飯田（向の岡工）　奥田（田無工）　小野（東京工）　佐藤（横須賀工）　松本（葛西工）

製図部会　※五十嵐（東工大付工）　赤池（墨田工）　片伯部（神奈川工）　徳永（鶴見工）　岡田（川越工）　加藤（川崎市立工）　大仁田（市川工）

6　教材委員会

委員長　五十嵐（東工大付）

会長・副会長　井上（墨田工）　堀越（小石川工）　森安（田無工）　宮島（安田学園）　松本（葛西）

山田（関東商工）　岡登（関東）　白石（市川工）　高橋（吉）（神奈川工）　若狭（神奈川工）　加藤（川崎市立）　福馬（大宮工）

7　工業標準テスト

副会長　東工大付工高・葛西工高・市川工高・向の岡工高

昭和４７年度会計（予算）

1　収入の部

	予算額	備考
昭和４６年度繰越金	２８,５９０	
昭和４７年会費	１８０,０００	納入見込９０枚分（全・定共）
ワークブック印税	７０,０００	
賛助会補助	２００,０００	
雑収入	３０,０００	助成金・寄付金・利子
計	５０８,５９０	

2　支出の部

事業費		
総会費	１４０,０００	会場校補助・講師謝礼など
資料編纂費	６０,０００	資料作成印刷・ニュース
講習会・研究会補助	１００,０００	秋季・夏季講習・見学会補助
視察出張補助	３０,０００	近畿工高連盟大会参加その他
分科会費	６０,０００	@１５０００×４分科会
運営費		
役員会費	２５,０００	理事会茶菓代・会場費
交通通信費	４５,０００	切手・はがき・交通費
事務手当	５,０００	
雑費	２０,０００	
予備費		
予備費	２３,５９０	
計	５０８,５９０	

計 画 分 科 会 報 告

1 はじめに

今回は「建築教育ニュース・1972・2」以降における計画部会の主な活動状況についてまとめてみました。

一昨年より研究活動の主題としてきた建築計画の内容編成とその展開例に関する一連の課題も諸先生方の御協力により、指導計画案の大要ができ上がりつつあります。ささやかながら、教育の現場で学習指導上効果的に活用されることを期待しております。なお、建築史についての研究活動も中村（小石川工定）、土田（田無工）、石井（葛西工）の各先生を中心にすすめられています。是非、御意見やニュースなどお寄せ下さい。

2 部会活動の概要（計画部会ノートより）

◎ 部会委員会開催　47年2月18日

議事および討議内容

(1) 産振設備基準改訂に関する件

(2) その他

◎ 部会委員会開催　47年5月11日

議事および討議内容

(1) 総会（秋田大会）の分科会資料の件

(2) その他

◎ 総会（秋田市、男鹿市）　47年6月2・3日

計画分科会出席者　19名

協議内容

昨年7月、神奈川県での計画分科会において検討された「建築計画」の内容編成についての展開例と最近実教出版社から出版（昭和47年5月25日発行）された新教科書「建築計画」との関連を委員会でまとめたので、今回はこの資料を中心に研究協議を進めることにした。まず問題点、相違点、新教科書の内容などについての説明がなされて討議に入り、次のような発言があった。

（発言順、要約したもの）

1：設備の知識が分散されている。また一年から使用すると用語に問題がある。

2：今までの教科書と違い数値計算がない。

3：新教育課程では、専門教科が３５単位～４０単位になる傾向があるが、工業教育の面から建築計画の内容はどうなるか、工業教育のレベルを下げてよいのか。

4：工高生の質の低下をどうするか、質の低下をくいとめるのに精一杯である。

5：単位数が少くなったので、教科書を完全に消化することは不可能ではないか。

6：教科書の低下（程度）が気になる。長年この教科書を使用するとどうなるのか、工高卒が主体の地方では問題がある。レベルダウンしないように参考書が必要になる。

7：地方では、設備工業科がないので、設備の知識が必要である。

8：教科書はもっとやさしくしてよい（表現）高校と大学の違いをはっきりさせる必要がある。

9：計画の教科書は各論であるから第４章以下は省略してよい。

10：計画は、自分で調査することから始めることが大切である。

なお、関口先生（文部省）から工高校だけが能力が低下しているのではなく、普通高校の能力も下っているので、その点の配慮が必要である。また、教科書については必要最小限のものを教えるのがよい。したがって、学校で学習すべきものと社会にでてから学習できるものとを区別し、学校では基礎的なものを教えるようにすべきであるとの考えが述べられた。

以上、時間の関係もあり具体的な指導方法まで討議を深めることができず、問題の提起に終ってしまった。したがって、各県に計画部会連絡校を一校置き県単位でこれらの問題について研究協議した結果を連絡校でまとめ委員会に送り、委員会で討議を重ね、調整編集し、次回の分科会での討議資料を作成することにした。

最後に分科会のふんいきから「工業教育がこれからどの方向にすすむのか」曲りかどにきた工業教育の抜本的検討が必要のように感じられた。（教育制度全般から・・・・）

昭和４７年６月３日

於　秋田市、男鹿市

計画分科会記録より

◎　部会委員会開催　　４７年７月１２日

議事および討議内容

(1) 総会（秋田大会）の報告（志村先生）

(2) 計画部会全体会議の運営について

(3) その他、計画部会連絡校について

◎ 計画部会全体会議開催　４７年１０月１３・１４日

場　所　：　栃木県立宇都宮工業高等学校

参加校　：　熊谷工、大宮工、春日部工、桐生工、甲府工、峡南高、神奈川工、横須賀市立工、蔵前工、墨田工、東工大附属工、安田学園高、田無工、小石川工、土浦工、真岡工、宇都宮工（１７校２３名）

(1) 議題、協議事項

① 年間行事計画、部会活動経過報告

② 「建築計画」の指導計画案について

③ その他、事務局（森安先生）からの報告等

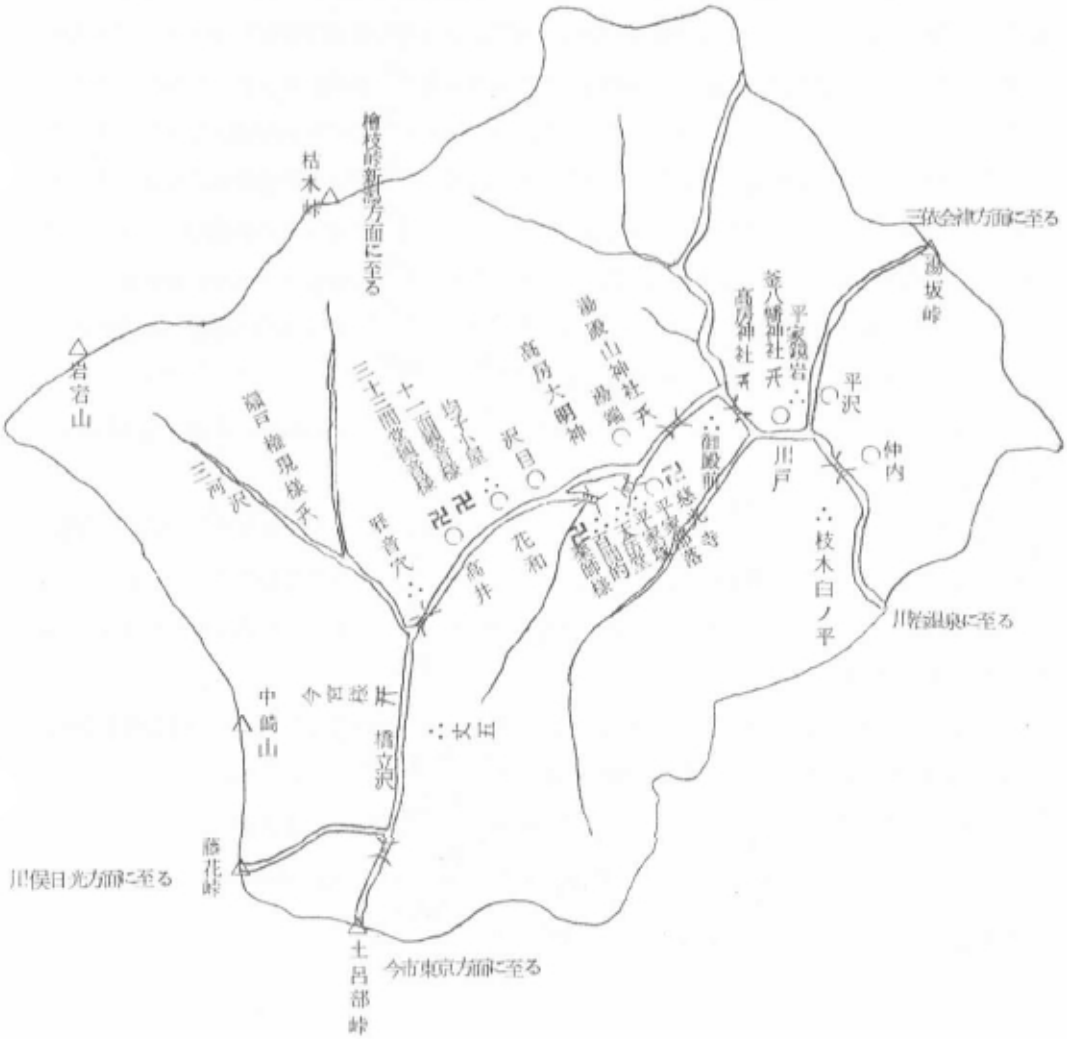
(2) 見　学　会

o 平家落人部落（湯西川）

o 鼓光寺など

本年度計画部会全体会議は、東京近県持回りを原則とした最初の試みで、夕食をとりながらの交流会、平家落人部落の見学会などは、有意義であった。なお、会場準備等は、宇都宮工高の企画、協力によるものである。とくに、阿部、村田（宇都宮工）、上野（真岡工）、各先生方には大変お世話になり紙面にて厚く御礼申し上げます。

（湯西川温泉
平家落人部落）　名所古跡案内図



構造分科会について

井　上　　満

東日本建築教育研究会総会が、６月２日・３日の両日にわたって、秋田県で行われたことは既に御承知のことと思います。ここでの分科会において、教育課程の現行例と私案（東京各校資料による）をたたき台として出し、内容の説明を不十分ながら小生が致しました。これについて、構造設計の単位数について、いろいろ出ましたが、一応４～６単位ぐらいの線がでたと思います。次に構造に材料が含まれているとすれば、改訂の４単位は少なすぎるとの意見が、能代工他１～２校から出されたと思いますが、建築科としては４単位で止むを得ないという線が出たようです。

また、材料についての取扱い方について、もっと工夫が必要だとの意見が出されました。

次に、昭和４８年度以降の教科書について質問が出されました。その結果、現在の構造２、材料はのこすとのことです。構造１は絶版となります。

構造設計の編集方針、進行状況について述べましたが、その後の情報では、多少のびるとのことです。

次に本年度の分科会をどうするかの問題ですが、未だ、会合を十分しておりませんが、本年は、秋季大会において、鋼材倶楽部にお願いして、講師を派遣していただくことになりました。尚今後小委員会を遅いとは思いますが開いて分科会の活動状況を活潑にしたいと思っておりますので、協力方お願い致します。

尚、本年の総会では、鋼材倶楽部から援助をいただき、分科会で資料として配布致しましたが、部数に限りがありましたので、御不満の方もあるかと思いますが、お許し下さい。書名は、H形鋼ハンドブック（日本鋼管）、やさしい鉄骨造、建設用鋼材資料集その他です。

構造分科会について御要望、御意見などございましたら、お知らせ下さい。

実 習 分 科 会 報 告

県立神奈川工業高校
山　室　　滋

今回の内容には、春の総会での分科会と、夏期の施工実習研修会があります。総会については分科会資料№7でお知らせしました通り、新潟工高の上野先生にお願い致しまして、「新指導要領の学習指導について」協議会を催し、実習を主眼にして、また、工業教育の心髄にふれるなど有意義な会で終了した。

夏期の施工実習研修会は、東日本建築教育研究会の全面的な御支援によって無事終了することができました。関係各方面の方々にお礼申し上げます。

今回のニュースは「夏期研修会の催しについて」できるだけ詳細に掲載せよ。との御指示がありましたので、過ぎし暑かった日々をふり返って、準備から終了までを前編として報告します。なお、運営委員の各々の分担事項についてはそれぞれの担当内容で記述して頂きました。

1. 分科会の委員活動

回	日	時	場所	内容
1	4／13	14,00	神奈川工高	1. 前回の確認（施設、設備基準改訂に伴う品目、施設について 2. 実習書の発行と研修会の開催について
2	5／11	14,00	神奈川工高	1. 本部理事会へ「施工実習の研修会開催」の意向を伝へたところ、了解を得たことを報告 2. 具体的な研修会の日程協議する。　次の理事会へ提出する。
	5／13	1,00	横須賀工高	1. 横須賀工高へ会場校のお願いをする。　了解を得る。 2. 宿泊について検討する。
	5／16		（理事会）	1. 本部理事会に夏期施工実習の計画案を提出。　一部修正することで承認を得る。 2. 春の総会の分科会は新潟工高の上野先生に運営して頂くことを了解する。　上野先生に依頼書送付する。
	5／18		（会長校へ）	1. 長谷川光次会長に夏期研修会の計画案を提出承認受ける。　8／2～4日　2泊3日。

				2. 事務局森安先生に報告、各委員に実施計画案送付、日程要領は印刷屋へ依頼する。　総会に配布するため。
	5/25			1. 新潟工高の上野先生に総会の運営について電話で確認了解を頂く。
3	5/27	10.00	横須賀工高	1. 前回までの経過を報告して確認する。 2. 研修会の詳細について協議する。 3. 運営に委員の増強を計る。　本部より委嘱状を出す。
	6/2・3		秋田総会	1. 分科会「新・指導要領と学習指導について他」新潟工高上野先生。 2. 分科会活動を活潑にするためブロック別に「実習分科会小委員会を設けて連携を保つことが承認される。 詳一任 3. 全体会にて分科会の経過を報告する。 4. 夏期施工実習研修会日程、要項配布説明する。
4	6/13	14.00	田無工高	1. 総会内容報告 2. 夏期施工実習研修会日程、要領を本部より各学校長宛送付して頂くようにお願いする。 3. ブロック別小委員会名簿作成　原案検討 4. 夏期施工実習研修会の実習内容を各委員で分担する。当日の資料は各委員が作成する。要領はモデル原稿を作り各委員の手元へ送付する。
5	6/27	14.00	向の岡工高	1. 夏期実習研修会増強メンバー委員会となる。実習担当委員は増強メンバーを早く決めて資料、準備にかかること。 2. 研修会当日用の資料は参加者に事前に手元に届くようにするため、今月中に分担委員の原稿を提出のこと。 3. 提出のあった原稿を検討する。 4. 会場校からの報告 5. 委員の扱い方について ① 委員は開催中、または準備中出席する。 ② 会費は同じように納入する。　早く出す。

				6. 研修会当日用の資料の原稿、表紙　5頁まで検討する。　承認、印刷屋へ回す。
				7. 委員の原稿提出不揃の現状から、資料を事前に送付することを改め、当日会場で配布することに切り換える。
	6/30		(会場校)	1. 会場校の委員と宿泊先のケーブシャトーで打合せ、前泊者と、当日宿泊者の代金の内金を支払う。
				2. 小委員会名簿「施工に関する科目を担当する職員の一覧」が刷り上ったので発送方を依頼する。
6	7/11	11.00	田無工高	1. 参加申込数は72名に達したので、準備もこれを考慮して行う。
				2. 資料の原稿はモデル原稿と、鉄骨造の原稿を参考にして、次回までに必ず提出のこと。
				3. 原稿によって、当日使用する、材料、工具、消耗品などから費用を計上した一覧表を持ち寄ること。
7	7/18	11.00	横須賀工高	1. 次回から研修会当日までの委員会日程をきめる。
				2. 提出原稿を検討する。
				3. 日程表の実習項目を記入し検討する。
				4. 費用、使用材料、器具、工具、会場について
	7/21	10.00	横須賀工高	1. 会場校にて各委員の分担項目準備、鉄骨造は向の岡工高にて現寸図作成　会場へ後日搬入する。
8	7/22	10.00	横須賀工高	1. 当日、実習の内容をスライドで説明するため、各々の実習項目とスライドの作成方針を打合せる。
				2. 参加者76名の報告がある。
				3. 資料の原稿提出のあったものを田無工高の奥田委員が持帰り、印刷して資料作りをする。
				1. 田無工高では印刷作業
				2. 会場校では各委員が準備作業
				3. 会場校の建築科職員並びに関係職員の協力で会場準備が進行中
				1. 田無工高より会場の横須賀工高へ印刷資料、カタログ等を搬入する。

9	8/1	11.00		1. 最終打合せ、会場の確認 2. 各実習委員継続作業 3. スライドの検討（鉄骨造、鉄筋コンクリート造、基本木造） 4. 鉄骨現寸図が向の岡工高より届く（トラックで）
	8/2〜4		横須賀工高	○ 東日本建築教育研究会「施工実習研究協議会」開催、資料の通り（№9）
	8/5			1. 実習場跡の片付け掃除
	8/6			1. 向の岡工高さし回しのトラックにて鉄骨現寸図搬出。
	9/23	1	（理事会）	1. 本部理事会にて「建築ニュース」実習分科会報告掲載の指示あり。
10	10/6	14.00	神奈川工高	1. ニュースの原稿を分担して各委員が作成すること。内容は、準備　当日の模様　反省など 2. 研修会当日のスナップ写真、アンケートについて。 3. 小委員会との連携、打合せなど。
11	10/26	14.00	向の岡工高	1. ニュース原稿提出、検討　10/31　小石川工高、堀越先生へ送付 2. 夏期研修会の反省

2. 夏期に研修会開催にこぎつけたものは

夏期休暇中に「施工実習研修会を開催してはどうか」という気運は、かって分科会単独で会を催した折、遠方から多数参集されて、いろいろ貴重な御意見を賜ったころからであった。委員会が開催の方向で検討し、活動したのは本年四月からであった。

単独部会で研修会を運営したのは、当時、本部が行う春の総会、秋の見学、講習会の他に、分科会では単独に行うようにという指示があったことと、分科会で実習の基本項目の検討という実習路線の作業中でもあったからでした。

このような経過と、今回夏に実施するというエンヂンの始動のキッカケは実習項目の検討の成果、実習書の発行、それに新・指導要領の実施というようにさまざまな要因が重なって開催のスピードを早め８月２日〜４日の開催に踏み切った次第です。

委員会が研修会開催を真向から取り組んだのは、５月中ごろからで、当初は準備期間が２ケ月半で出来るだろうか、本年度実施しなければ開催の効果はうすい、会場はどうするか、宿泊はど

こか、などから検討し、前記委員会を経て、会員が多数参加できるように本部主催にして頂くようになり、開催にこぎつけた次第です。　（資料№7 参照 ）

以下、実施に当っての準備から開催の内容を順を追って報告します。

3. 研修会の日程・内容

会場校を横須賀工高に決定したのは、第一に委員校であること、学校、とくに科の職員が一丸となって協力態制であることに主因し、しかも、長い間施工実習について他の数科目と同様に重みを置いて実施しているなどの教育姿勢によるもので、会の準備期間中、並びに会開中に参加者が受けたメリットは多く、会の成果につながるところが大きかった。

日程は、別紙（当日の配布資料再掲）のように3班に編成するので各班が行う時間が１３時間３０分となった。この時間のわくの中で各種の実習を項目別に行うにはどうしたらよいかということになり、次のような主旨で項目内容と時間を配分した。

① 実習書は、履習学年を考えて、どくわかり易く理解し易いように各構造体の作業に合せて項目を立てているが、今回は教師の研修の場にふさわしく各種の構造実習項目を見通して短時間に実習要領をは握し、相互の関連を深めて実習内容に即した施工方法（作業）を体得するように組み替える。

② したがって、当日の資料は実習書(2)の内容に沿って行うが、各々の構造別作業に最も適した内容を時間内に組み入れる。

③ 基本実習では、木材の判別、性状などを実物で理解させたのち、基本的な手工具、機械での挽き割り、削りなどの作業をする。

木工機械については、実習書より、目的、機構、取扱い……などを総括して理解したのち、基本的な作業によって機械になじませて作業の要領をは握させる。

④ 木造実習では、実習書の小屋組（京3組）の墨付け、加工を順序立てて理解させるため、実物大の小屋組を作成し、軸組との関係を併せて体得させる。木材の性状と加工順序、工具の扱い、加工精度などを吟味する。

⑤ 鉄骨実習は、現寸図の作成を主体にした内容とする。現寸図の完成品と、鉄骨骨組セットの現物とを説明したのち、作成順序、要領を資料に沿って行う。H、T、Bの説明も同時に時間内に組み入れる。

⑥ ブロック造実習は、たてやりかた、ブロック積みの作業に重点を置き、基礎、鉄筋、がりようなどについては当然理解しているものとして実習作業から省く。水もりやりかた、根切り、基礎などの作業は運営担当委員が現場で事前に準備する。

第日 月日	A 班			B 班		C 班	
第一日 8／2	12.30	基本・木造実習	基本実習 (木工機械) 木造実習 (用材の選択) (墨付け) (部材の墨付け) (加　工)	12.30	鉄筋コンクリート造実習	12.30	鉄骨造実習
				16.00		15.30	ブロック造実習
	16.30			16.30		16.30	
第二日 8／3	9.30	鉄筋コンクリート造実習	o なわ張り o B・M、くい位置印し o 高さ規準の設定 o 水盛りやりかた o 基礎・柱の墨出し o スラブ上へ立上り墨 柱・壁の墨出し o 鉄筋加工、組立	9.30	鉄骨造実習	9.30	基本・木造実習
	10.30					10.30	
	12.30			12.00		12.00	
	13.00			13.00	ブロック造実習	13.00	
	15.00	鉄骨造実習	現付図 型板・定規とり 鋼板・形鋼けがき 高力ボルト	15.00	基本・木造実習		
	16.30			16.30		16.30	
第三日 8／4	9.30	ブロック造実習	たてやりかた ブロック積み	9.30		9.30	鉄筋コンクリート造実習
	11.00						
	12.00			12.00		12.00	
	13.00			13.00		13.00	

⑦ 鉄筋コンクリート造実習は、上記の構造体が造られる過程で当然行なわれる省かれた作業や、鉄筋コンクリート造に遠した作業を実習項目とする。

例えば、GLの設定、境界と建物の位置、捨コンクリートへ柱、はりの墨出し、2階スラブへ逃げ墨の立上げ、ベース筋の加工、組立など、がある。

4. 準　　備

資料は、日程表と前記3の要領によって各ブロックごとの運営担当委員がモデル原稿にならって作成した。作成方針としては、

① 当日実施する実習項目の作業の内容をはんいとして、実習書に盛られていないが当然資料として手元に必要な事項、例えば、形鋼のゲージ、ピッチと明き、鉄筋折曲げ規準、末端部のフックの長さなどをつける。

② 実習書に表はされなかった指導的なこと、応用知識、応用事例などをつける。例えば、なわ張り作業には、3：4：5の割合をテープで三角形に張って作業を行うなどの事項を附記する。

資料の原稿は各委員が早目に提出してこれを基にして準備作業をし、必要に応じて訂正したり、追記したりするなどして万全な原稿と、スライド作成の一貫した資料で貰く積りであったが、不調になり一貫した資料が綴込みになったのは開催日前日まで延びてしまった。

資料は44頁の印刷と鉄骨の図面6枚（A2）で、このうち、38頁の印刷と図面は費用節約の方針で田無工高に印刷をお願いしたものです。同校は休暇に入るとキャンプなどの付添で多忙の中を、若手の先生の素直な援助により3日間の連続印刷、焼上げ作業で参加者の資料を作成して下さいました。休暇中のことであり、今どき頼まれて協力しようとしないこのご時勢に、卒先して作業して頂いたこの姿に本当に有難く感謝して居ります。

実習会場は、3班に分けて行うにしても76名が同時に行える面積がないので、外部と内部に分けて会場を設定した。

内部には基本、木工実習と鉄骨実習を、外部には、ブロック造、鉄筋コンクリート造実習にすることにし、会場校の現地で打合せをする。

外部設営位置はできるだけ日影となり、お茶、氷水、菓子の置かれる位置から遠くないところに見当をつけたが、そこは他の科の実習場に近すぎたり自動車置場の位置であったりして申し訳ない気がしたが、東日本の研修会ということで承諾して下さいまして誠に有難く、位置を確保して、土を堀り起し散らかした次第である。

5. 運営はどのようにするか。

開催日が近づくにつれて運営の具体策が必要となり、会場校の先生方の協力を得て、次のようにする。

① 開催当日の進行状況に合せてどのような品物を調達するか、参加者が当然要求するであろう内容を含めて考慮する。

② 暑い炎天下の作業であれば、氷水、お茶、お菓子など考え、汗が出ればタオルが、洗濯には粉石けん、石けんが必要であろうというように実習を通した生活が円滑に進められるように必要経費を計上する。

③ 76人が同時に行えるようにするには、会場校の工具、器具だけでは不足するので、不足分は各委員校から調達する。

④ 材料は当日必要なものは新らしい材を購入するが、準備のための資材はできるだけ会場校の使用中のものを活用させて頂く。

以上の要領で予定の大わくに大きな足も出さずに済んだ（済ましてもらった）ということになる。

これは、会場校の持ち合せのある合板、木材、鉄材、消耗品、V・P、くぎ、類などを、運営委員が会場準備のため手当り次第に倉庫といわず、工場の片すみから持ち出して準備に使った材料が大いにあったからと考えられる。

会場校は、以前より施工実習の授業を他の関連科目と同様に重点をおき、実施して来た学校であることは聞いているが、今回始めて他人の台所に入ってみてなるほどと感じるのは委員だけではあるまいと思う。

材料、工具および副資材などがいつも適量に貯えられ、いつどんな時にも即座に間に合せられるということは、教育の歴史と熱意を物語っている。

宿泊の室割りや、班別編成は研究活動中語らいの場となるように地域性を考慮して行う。参加者名簿参照。

次に各部所で運営担当下さった委員の報告を掲載します。

会　場　総　括　係

横須賀工高校長
川　本　正　司

本年8月2日から4日迄の3日間「東日本建築教育研究会実習部会」の主催によって「施工実習研究協議会」が本校を会場にして開催された。

昭和48年度より実施される改訂案の「建築実習」の目標をみると(1)目標　建築に関する各科目と有機的な関連のもとに実際の作業を通じて、建築技術の基礎を総合的に習得させ、応用と創造の能力および望ましい態度を養う。(2)内容　計画、構造、材料、設備、測量、施工となっている。

さてこの「施工実習」であるが、全く新らしい教科と考えてもよい程一定の方針と定着した授業法のないのが実状である。従来の建築実習は木工具と木工機械によって、つぎ手の工作とか板削をして、それを実習と称していた。

今回の「研究協議会」を準備させた委員の先生方の苦心の点がここにある。そして、えたいの知れないものを徹底的に研究させて、ある形を生みだしたこと（この細目は各委員の先生方の項を参照されたい）と何をどのように理屈をくり返えさず、手をよごしてやってみようという熱意によって展開された。

幾日も徹夜をして準備された委員の先生の努力と、多数の参加された全国の先生方が8月の炎暑のなかを熱心に研究されたことに敬意を表します。

今回の実習研修会のお手伝いをするに当って、工業教育界で貢献される大先生の言葉を思い出さずにはいられません。

◎　中村喜一郎先生

実験実習は実に大切であり、これを軽視しては、工業技術教育の成果はあがらない。それがなぜであるかの論拠については多くの専門書に詳述してあるので省略するが、とにかく自分としていえることは、知識として定着しており、応用がきき、創意くふうの源泉となるものは、ほとんど実験実習を通して得たものばかりである。（横浜商工校長）

◎　富塚信司先生

物を生産し製作することを教える工業の学習では、実習と設計製図は本来不可分の関係にあるものだ。従来「建築実習」は建築施工技術の総合学習を目標としていたものを今回の改訂で

は、各科目と関連して「実習」では実際の作業を通じて「設計製図」では設計製図を通じていずれも建築技術の基礎を総合的に学習することをめざすものに改められた。

本来建築科の目標は、各種用途の各種構造の建築物を設計し建築することを学習することであって、そのためには、実習・設計製図いずれの学習にも軽重ないもので、二者関連しながら学習することによって、知識と技能・技術が身につくものであると思う。（前東日本建築教育研究会理事長）

受付・会計

市立横須賀工業高校
三浦陽助

今回の研究協議会の開催が具体的に決定したのち、諸準備に忙がしくなったのである。当初参加人員数を会場・委員その他の関係で５０名に決定してその準備を行なってきたのであるが、申込〆切り日の数日前に早やくも定数を越えた状態となってしまった。しかし〆切り日までには大部日数があるため最終的な参加人数の確定ができず、文字通り嬉しき悲鳴となってしまった。

宿泊場所については三浦半島全域が季節的に混雑するため５月中旬に申込手配をすませたのであるが、最終の参加人員は宿泊５４名、通勤２２名の計７６名となった。今回の研究会は従来の会とはその趣を異にしたものであるため予算的には非常に苦しく、参加された先生方には充分なこともできず甚だ残念と思っております。

しかし、この研究が本質的に今までの研究会と異なったことは会計としてもきわめて喜ばしいことと思っております。

会場準備、宿泊、昼食等いろいろと細部に亘っての苦心はありましたが、今回の研究会を基盤として、施工実習の教科のみならず、建築教科全般について更に効果的な教育が進められるよう切望いたします。

基本実習・木造実習

市立横須賀工業高校
佐藤克己
三浦陽助

1. はじめに

今回おこなった研究協議会は、工業高等学校における建築技術の学習の向上を計るため実習書「建築実習２」に基づいて実施されたのである。

建築施工は各業種の職人と現場員との共同作業により進められていくものであるが、近来各職

種の技能的欠陥あるいは、新建材、新製品の出現による施工技能の未熟が各工事上の問題点となっている。

学校実習はこれらの問題点を建築技術者として把握し、その基本的な作業の正しいあり方を理論的、体験的に学習させるため、各学校で実施している施工実習の内容を学習指導要領のわくにこだわらず建築施工実習の独自の内容として知っておかなければならない必要最小限の項目を指導する必要がある。

今回の研究会では、時間的等いろいろな制約があり内容的にも範囲がせばめられた。内容を列記すると次のようである。

(1) 基本実習　「実習書2」の「実習２３　・　木工機械」の項に従って木工機械の扱い方をおこなった。

使用機械と作業項目

1. 丸のこ盤・・・・・・・・・角材のひき割り作業・板材のひき割り作業
2. 手押しかんな盤・・・ひき割り角材の矩折り（２通）の定規面削り作業
3. 自動送りかんな盤・・ひき割り角材の加工寸法荒削り作業
4. 昇降盤・・・・・・・・・・・材料の長さ取り作業・内のり材の溝つけ作業

(2) 木造実習　「実習書2」の「実習２７・用材の選択」・「実習２８・墨つけ」・「実習２９」部材の墨つけ」・「実習３０・加工」の順に従っておこなった。

2. 実施活動の内容

1) 基本実習

基本実習では、建築施工に際しての各構造体に必要な基本的項目を記してあるが、今回の研究会においては、時間的、日程的にも制約されていたためと近来各校の機械設備が大方整えられているものと考え各機械の操作について生徒の学習指導上もっとも危険を伴う教科のひとつとして、木工機械の操作作業に主眼をおいておこなった。

時間の配分は下図のように、基本実習と木造実習の基礎的部分を並行させて２班編成として交互に実施した。

(1)実習作業に当っては、初期に予定した人員数を大幅に上まわり、実施会場が狭くなる状態で参加された各先生方には、いろいろと作業しにくかったことと思われます。

先生方には甚だ失礼かと思いますが、木工機械を扱うに当っての機械使用上の加工目的、機械操作不なれの先生が比較的に多くみられ、そのために機械に恐怖感を持たれた方が相当数おられた。しかし実習の態度は真剣で恐れげながらでも各自各自がひとつひとつの機械を使って素材が加工されていく様に満足感を味わい、機械操作に大きく自信をもたれたことと思います。

2）木　造　実　習

木造実習は、前にも述べたとおり、基礎的な項目と応用的な項目の２に区分し基礎的なものについては「実習２７・用材の選択」と「実習２８・墨つけ」の項を選んで基本実習と並行して実施した。

応用的なものでは、製図教科書の製図例「木造住宅」の一部（実習書２のＰ１４５参照）に従って実施したのである。

(1)　基礎的な項についての作業は、基本実習同様に材料の現物に接する機会の少ない先生方にとっては材種の見分けに苦労されたことと思われる。現在の建築用材は以前より市場に出回っていて「ひのき・すぎ・まつ」などのほか「からまつ・えぞまつ・とどまつ・あすなろ」等が出現しまた、更に外国材の輸入も多く「　つが・　ひば・　ひのき」等が加わり今日では生徒の学習指導に日日ご苦心されていることと思います。しかし研究会に出席された先生方には、大なり小なりの要点とひとつのヒントを得られたことと考えます。

また、墨つけの基礎実習では工具（墨つぼ・墨さし・さしがね）の扱いについて非常にご苦心されたことを感じます。実施状態を見て墨が手につくことを恐れている先生もおられましたが、やがては墨に手を汚しいきいきとしてその作業にとりくんでいる姿を拝見したとき、これが実習だということをしみじみと感じさせられました。

(2)　応用的な作業は「実習２９・部材の墨つけ」と「実習３０・加工」に従って実施されたが率直にいって実物大の材料を手掛けた先生は少なく、部材に直面してとまどっていた方が大部見うけられました。しかし研究態度はきわめて熱心で、ふきでる汗もぬぐわずに、夢中になって作業に専念している方ばかりでその姿の記録を掲載できないことが残念と思います。

また、加工時にいたっては持ちなれぬ玄能に手を打たれ、血をにじませながら真剣に作業している先生もおり、更には加工を間違がえて気をおとしている方もおりましたが、組立ててみて満足感を味わった先生の中には、来年は自分の家を自分でやって見ようなどという言葉さえもれていました。

(3) ま と め

施工実習については、その授業内容が各校まちまちであった。その要因としては独自の教科書がなく、授業のよりどころとなるものがなかった。しかし今年実習書の発行によって、一応内容的には明確になったものの、これを指導する教師の側に生徒指導上のひとつの問題点があった。

従来、施工実習の是否についてはいろいろと論議なされてきたが、各校の実際に担当されている先生方のご要望とご協力によって、今年このように盛大な会がもたれた事は諸先生方共々よろこばしいことと存じます。

しかし、夏期休業中の最も暑い最中に文字通り汗水たらして参加された先生方には、心より敬意を表したいと思います。期間的には僅か3日間のことではありましたが、その中で、たとえひとつのものでも研究なされ身に感じたものがあれば幸と存じます。

また今回の研究協議会によって、施工実習の内容的な方向づけができたことが、私たち現場の教員にとって更に力を得たものと考えられます。

更には、この種の研究会のあり方についても、いろいろと考えられますが、第一段階の試みとして大きな成果を修めたことは事実として評価することができるでしょう。

鉄骨造実習報告書

県立向工高　飯田三郎
山崎敏弘

5月9日（神工）　山室主査より研究協議会の各委員の分担が発表され、鉄骨造実習を向工でやるように云われて、本校の実情より引受けられる状態にない事、更に「本校で行なっている程度の事は一般に実施しているのではないか」と云う事を申出たがとに角実施する様にという事で止むなく参加することになった次第です。

5月11日（神工）　協議会の実施期日、場所（市立横須賀工高）、日程等がほぼ決まり、3班編成で3日間、鉄骨造実習は計12時間で1班4時間の予想で、その実施内容を方針通り教科書「実習2」に沿って細目案を決定する。

5月27日（市立横須賀工）　本校建築科1年生死亡事故発生のため欠席。

6月13日（都立田無工）　資料作成準備打合せを行い、工具、材料等の準備リストを会場校に渡し、その準備を御願いする。この間、鉄骨造実習の当日実施細目案を検討し、現寸図ー型取りーけがきー加工ー組立ー高力ボルトー基礎ー建方、までは時間的・施設・設備・その他の制約上、現寸図ー型板とりー定規とりーけがきー高力ボルトの範囲までにしぼり、而も、いずれもそ

の一部分について行なうことにする。

６月２７日（向工）　資料提出期限、７月４日までに印刷完了ということで原稿・図面等を田無工奥田先生に御願いする。（資料の内容として要求されることは、実習教科書に盛り込まれていない而も当日実施する作業に必要な事項、応用知識等で実習教科書を建築教育の場でいかに活用するかの研究資料とすることであった）。また、各項目毎に委員の増強を行い、向工（山崎）田無工（奥田）・両先生と計３名で協力することになる。

７月１１日（都立田無工）この間までに会場準備その他は山室主査、会場校諸先生方で着々と進められ、具体的に報告があり現在まで申込数７２名の多きに達したとの事であった。又、スライド映写、各ブロック毎の作業時間の割り振り、および必要経費額を検討の上、次回までに報告することなどの打合せが持たれた。なお、当日必要な工具・材料等のリストを訂正の上再度会場校に渡し御願いする。

７月１８日（市立横須賀工）　工具・機器・費用のリストを最終的に提出。又、鉄骨造実習の持時間１班３時間を現寸図６０分、型板・定規とり４０分、けがき４０分、高力ボルト４０分として配分を決定する。

７月２０日　日本ビデイＫＫに足場関係の資料の提供を依頼し、鉄骨現場作業をする。

７月２２日　（市立横須賀工）　資料準備、実習場所の決定・整備。

７月２４日・２５日（本校施工実習室）　現寸参考図を生徒３名と職員３名（内１名撮影係）で作成に３日間の予定で取り掛る。実習室の暑さには閉口したが仕事の内容をよく理解してくれて、意欲ある活動で能率が上がり、２日間でほぼ完成し、当日の一応の準備は完了した。後、月末に会場校に運搬する手配・当日使用する工具・機器・材料等の準備をする。

７月３１日　現寸板３枚・形鋼・鋼板・帯鉄・塗装工具および材料・鉄骨工具一部（他は会場校で借用）の積込み作業を手伝い、特に現寸板は運搬中の破損・図の消滅がないよう考慮し完了する。又撮影済みのスライドを夕刻引取りにいく。高力ボルトは、奥田氏（田無工）にその分担を御願いしてあったが、内容は御存知の通り非常に膨大な資料（全資料の半分以上）を用意して頂き、事前に相当無理な事を承知で御願いした場面もあったので感謝すると同時に申し訳けなく思って居ます。

８月１日（市立横須賀工）　一日かけて資料の綴じ込み、会場準備、材料等の整理を終了後、スライドの試写を行い整理をし一応当日の準備は完了したので、一部委員は泊り込みで宿舎その他の準備に掛かられたが我々は帰宅した。又工具の準備点検中横須賀工にないものが判明したので、開催当日（初日）早朝に一直向工に取りに行く事とし、スライド説明に間に合うように時間等を打合せ山室主査にその旨の了解をとった。

8月2日～4日（（市立横須賀工）　実習実施に先がけ、スライド説明を行う。作業に順じての内容を３６枚に記録したもので、特殊工具の使い方、現寸図作成に当っての基準線の取り方順序、定規取りにおける帯鉄の記入方法等を特に詳細に説明し作業の導入とした。

更に実習に当って、時間内で予定の項目を理解し消化していただくために次のことを考慮した。① 作業と同じ完成原寸図、型板、帯板などを参考として並べた。（作業進行中細部のわかりにくい箇所は完成図を見ることにより理解しスムーズに出来たと思われる。）② 各項目別時間配当を掲示板に記録した。（各班共進度を時間に沿って行ったため、現寸図作成において多少の差はあったが全ての項目が完了出来た。）③ 班別に必要工具を配置した。（作業開始がスムーズに出来た。）④ 現寸板に柱、陸梁の芯位置をチェックした。（現寸図の内容を充実するため役立ったと思われる。）

以上の配慮により、現寸図６０分、型板、定規とり４０分、鋼板・形鋼けがき４０分、高力ボルト４０分、計３時間という短時間にもかかわらず、ほぼ順調に作業が進行したと考えられる。

実施期間中参加者全員が暑さにもめげず各項目共熱心に作業された事は勿論ですが、鉄骨造においては、学校へ帰って実施する場合のことを考えた内容の質問が多くあった。例えば、現寸板の造り方、材料費、現付図、型とり、けがきの細部について、工具の購入、授業の単位数、班編成等についてである。本実習を振返ってみると多々反省点がありますが、特に施設、設備の点、２班編成で行ったため構成人員が多すぎて全部の人が一貫した作業が出来なかった点が惜まれます。高力ボルトについては、奥田氏より、実施前に資料の用意だけで良いのではないか、理論通り正確に行うには、施設、設備その他の点で色々と問題があるとの話でしたが、工具を手に取ってその真似事をするだけでも効果があるのではないかと無理にお願いした訳で、時間的にも設備等の点でも実際には出来なかった内容でしたので相当やりにくかったと思います。然し今回の実習目的に沿って行えた点では効果があったと確信します。

最後に今後、若しこの様な機会がもたれるならば、実習項目別に取り上げて単独に行えば更に密度が高く出来るのではないか、又委員もすべて万能ではないので、期間中に他の項目の実習に参加して、体験的に修得出来ればと思います。

鉄筋コンクリート造実習報告

都立葛西工高
松　本　延　夫

道路・隣地境界を区画した建築敷地を設定して、下記の実習活動内容を展開実施した。

実習活動内容

① なわ張り・水盛りやり方

（B・Mの設定からトランシット操作によって水盛りやり方の墨付

② 基礎の墨出し

（建築実習２の設計図より、根切り・割ぐり・捨コンクリート打ちした実物を、２箇所設定し実施）

③ 逃げ墨、柱、壁の地墨

（枠組足場に合板を張り２階スラブに見立て、各墨付けを実施）

④ 鉄筋加工

（設計図より、基礎筋、帯筋・筋かい筋の所要長さを計算し、定尺ものより切断し加工までを実施）

⑤ 鉄筋組み立て

（基礎墨の上に基礎鉄筋を組み立て実施）

実習活動内容

今回の実習活動は、予算不足が内容の盛りあげの隘路となった。基礎筋の組み立てだけでなく、柱、地中梁などの組み入れを通して、配筋関係の各種補助筋の把握、施工リストと積算及び型わく実習との関連を通して綜合的に実施したかった。

参加教師の理解と実習態度と意欲で、今回の趣旨である。作業要素は体得したことであろう。

宿舎　会場係

県立峡南工高
渡　辺　英　夫

猛暑に行なわれる施工実習の研修会ということで、会場並びに宿舎が、大変気になったというのが、この研修会に参加なされた先生方の、参加前の気持ではなかったかと想像されます。夏休み行なわれた研修会（実技研修会）会場としては、まことに、意をいやすのに、最良とも思われる神奈川は横須賀の地で、先生方の希望すべきところではなかったのでしょうか。会場の横須賀

工業高校から、京浜急行電鉄で７・８分、車でも１５分の海辺の高台に建つ、ホテルケープシャトウという宿舎も、夏の疲れた身体をよこたえるには、もってこいのところでした。山の高台で太平洋を一望にでき、囲まれた緑の木々も心を休ませてくれました。宿舎の様子をもう少し詳しく、紹介し施工実習の一貫として御報告したいと思います。参加なされた先生方は、おわかりのことと存じますが、前日の宿泊希望者が１６名（内４名が事情有って来られませんでした）それぞれ夕刻４時ごろから８時ごろまでにおいでになり夕食は来られた順に食堂でいただきました。一部屋４名ぐらいの割に入ってもらい朝食は一緒に食堂でいただくようにしました。皆さん明日からの実習の様子を想像されているようでした。朝８時朝食をとり１２名でしたので全員電車で会場の方に行きました。朝の海辺はさわやかで途中にある三浦半島名物の、スイカ畑などが目を楽しませてくれました。一泊２０００円という安さなので木賃宿を想像なさった先生方がいらしたが、鉄筋４階建の、大きなホテルで、国民宿舎という感じです。アルバイトの高校生がフトンを敷いたり、食事の用意をしたり忙しそうに働いていました。一日目の実習が真夏の太陽の下で行なわれ、夕方４時半に簡単なかたずけをして、バスが校門まで来ておりそれに乗って宿舎まで直行こうして３日間、会場と宿舎はバスで先生方を運んでくれました。作業着のまま割り当てられた各部屋に入り、すぐ入浴、そして食事という格好です。夕食は大広間に用意されています。別に自主的参加の研修会ということで食事だけでアルコール類は全くない淋しさを感ずる夕食風景、飲みたい先生方は、個人的に食堂でどうぞといったもの。昼の実習で疲れているのかわり合い早く休まれたようです。海の夜風に当たりながら実習の反省やら今後の学校へ持ち帰ってからのことなど熱心にロビーで話し合っている先生方もおりました。その他テレビ、囲碁などをして楽しそうにしてくつろいでいたようです。プールもあり、パンツを用意して力泳なされた若い先生もいたようです。部屋は大体どこもいっぱいで、フトンを敷くと歩くところがない状態で、誰かの足の上にのぼってしまったようで大笑いした一幕もあったとか‥‥。最後の夕食をむかえようと校門でバスを待っている時ある埼玉の先生から「今夜は最後の夜だ、どうでしょう皆で少しづつ出し合って今夜は一杯皆で囲んで夕食に花を咲かせましょう」との提案が有り全員が即賛成との声あり一人５００円ずつ帽子の中へ集め最後の宿舎の楽しい想い出にされたのは実習はさることながら良かったのではないでしょうか、一生懸命実習に汗を流され海風に身をさらしながら飲む夕暮の一杯は、また風情のある姿でした。遊び歩くところは全くない海水浴場のこの三浦半島ケープシャトウは、先生方が３日間汗だくだくになって実習をした身を休め話し合った宿舎としては申し分なかったと思います。研修を主とし、酒ものまなかった宿泊ではあるが海の広さを知り、底しれぬ物の深さを知り、東日本の先生方が共に笑い、そして最後は自分等で夕食の宴を計画した誠に想い出深い宿舎風景でした。地元の先生方には、バスの手配まで、無理な注文まで

出し、数知れぬお手数をおかけしましたことと存じます。一言お礼をつけ加え宿舎の様子を終わりたいと存じます。

7. む す び

大変長いニュースになりました。3日間の研修会とその準備の内容は紙面に表わし切れるものではありませんが、各委員が言葉にされたことや、遠慮されていること、書き忘れているであろうことなどを断片的に代筆して報告のまとめとします。

受　付　・　日程・要項を総会にお配りした結果と、先着50名で打切りといったことが影響したせいか、6月中旬ごろには早くも20名をこえる申込数に達しました。中でも東北方面の先生が一番乗りという様子で、概ね遠方の会員が早かったようです。

その後、申込が途切れましたが、各校長宛に出した日程・要項が手元に届くころから、また連続して現金封筒が殺とうするという有様で50名の〆切をどこで区分するか、返送するには締切日には間があるということで、申込の流れの切れるのを待ったという現状で会場校として予期しなかったうれしい悲鳴となった。

計画案を理事会に示したころは、席上先生方がいろいろと御心配下され、知恵をお借り致しました。中でも、学校の予算は例年によって4月に予定を立てて分配するから、成功させるには費用をできるだけ減じてより多くの参加者になるようにということでした。

御蔭様で、実質74名の大わくができ運営を可能にして下さいました。参加の先生方にお礼を申し上げます。

会　計　・　年度初めの理事会に開催を認めていただき予算案を可決、本部より50,000円也を支給して頂き有効に活用しました。最後の全体会でも、会計報告を致しました通り分科会よりの支出は3,000円程度を補充することで済みましたことを報告し、重ねて会計係の労に感謝します。

委任の分担準備作業　・　生徒が休みに入ってから行ったことで手がないことで苦しかったようです。幸い会場校では、2・3年の実習の経験者を数名手配して頂き、連日手伝って頂きまして有難うございました。ふだんは、重労働のない先生方が開会日までという日を切られた仕事には大変お疲れの様子でした。夜は宿直室、保安室を借用して泊り込みで準備した委員の中には、なれぬベットから落ちることもあった。

朝は自炊で、名物の三浦わかめを入れたみそ汁は各別の味です。若い頃の合宿のような雰囲気になることさえあります。

2～3日ごろまでは体に疲労を感じましたが、それを過ぎると除々に体が調って（ならされて）来る様子で、未だ若さの源があるな、という気がしましたが、これも背水の陣を張ったという心境からでしょう。

休憩時間　・　開会期間中は天候に恵まれ暑さの連続でした。初日の写真撮影の後、午後3時の休憩時間は実習作業に熱中して、氷水、お菓子のそばに集る人の数の少い状況には驚かされました。時間割りで次の作業に移らねばということか、初日で張切っておられたのでしょう。老いも若きも一丸となって汗を流し作業をしている姿には胸を打たれるものがあり、準備期間中の苦しさも吹きとんでしまった次第です。

2日目でしたかに出されたスイカには皆、顔をほころばせて楽しくいただきました。何しろ本場物でしかも取りたての上等品を冷やしたというもので、汗を流した体には何よりの御馳走でした。

何よりもうれしかったことは、会場校の先生方並に職員が産地から買い付けて一日も前から大型の知人の冷凍室に入れて美味を貯えたという心づかいで、休けい所にはネコ（手押車）で運び、冷たいうちに切って下さった気持は何よりも貴く、美しく感激しました。

お　礼　・　本会の開催について会場を提供して頂いた市教育委員会、並びに、横須賀工業高校、本会の運営にいろいろと御援助、御協力を賜りました会場校長、教頭、建築科職員および職員の方々に心からお礼申し上げ会を成功の源となったことに深く感謝します。

会の運営にいろいろと御骨折り願った委員の方々を下記に印し、今後の会員相互の連携に資したいと思います。

川本正司、佐藤克己、三浦陽助	市立横須賀工業高校
飯田三郎、山崎敏	県立向の岡　〃〃
奥田幸司	都立田無　〃
関田梅吉、大沢二郎	県立熊谷　〃
松本延夫、村上睦夫	都立葛西　〃
小板　洋、渡辺英夫	県立峡南　〃
土屋　健	県立甲府　〃

また、尾又　清、岸　久雄（旧田無工高）の先生には印刷作業で大変御骨折り頂きましたこと

を附記します。

お知らせ・最後に紙上をお借りてお知らせとお伺いをさせて頂きます。

o　本会で効果的な運営のために作成した、スライドがありますので御希望がありましたら申し出下さい。実費で配布します。

o　実習作業のスナップ写真が撮って末記分のままです。1冊の写真帳にまとめてありますが、どのように回覧して希望をとるか思案中です。委員会では、ブロックの小委員会の先生の希望で責任と世話人になって頂き郵送回覧して次の地区の小委員会へ回送してはどうかと考えて居ります。御伺いまで。

o　会の終了時にアンケートをとりましたが全員から聴取しなかったので、参加者全員から改めてとり今後の方針や、各校の紹介などの資料にしたいと考えます。用紙は後日送付の予定ですのでお願いします。

なお、参加者名簿を添付し参考に供します。

東日本建築教育委員会

「施工実習研修会」参加者名簿

番号	地区	学校名	氏名	前泊	8.2泊	8.3泊	室名	班別	備考
1	北海道	北海道 旭川工高	清水 修					A	
2		北 室蘭工高	沢田 弘					A	
3	東北	岩手県 久慈工高	太田 勝	○	○	○	321	A	
4		宮城県 白石工高	小室 健一					A	
5		〃 古川工高	千葉 一男		○	○	321	A	
6		〃 仙台工高	黒瀬 一夫		○	○	321	A	
7		〃 仙台二工高	鈴木 達夫	○	○	○	321	A	
8		秋田県 秋田工高	高桑 勇		○	○	323	A	
9		〃 〃(定時制)	山内 泉		○	○	323	A	
10		〃 〃	小林 宮美雄		○	○	323	A	
11		山形県 鶴岡工高	伊藤 甫		○	○	321	A	
12		〃 山形工高	安達 昌一		○	○	323	A	
13		〃 米沢工高	中鉢 繁弼					A	
14	関東北	福島県 会津工高	菅原 能治	○	○	○	323	A	
15		〃 福島工高	佐久間 亨					A	
16		東北工高	佐藤 勝弘	○	○	○	317	A	
17		茨城県 水戸工高	五十野 道夫		○	○	317	A	
18		〃 〃高	園部 稔		○	○	317	A	
19		〃 土浦工高	江口 功					A	
20		栃木県 宇都宮工高	大竹 厚		○	○	317	B	
21		〃 〃高	斉藤 延夫		○	○	317	B	
22		〃 〃(定時制)	黒須 光雄		○	○	317	B	
23		〃 真岡工高	大島 一夫		○	○	320	A	
24		群馬県 高崎工高	新井 中	○	○	○	320	B	
25		〃 桐生工高	伊藤 初幸	○	○	○	320	B	
~~26~~		~~〃 長野原工高~~	~~高橋 透~~						盲腸のため取消

27.		埼玉県　川越工高	土信田　遠　雄	○	○	○	320	B	
28.		〃　熊谷工高	関　田　每　吉		○	○	226		委　員
29.		〃　〃	大　沢　二　郎		○		226		委　員
30.		〃　大宮工高	加　藤　源　治		○	○	320	B	
31.		東京工大附属工高	古　賀　昌　之		○	○	320	B	
32		東京都　葛西工高	松　本　延　夫		○	○	226		委　員
33		〃　〃	村　上　睦　夫		○	○	226		委　員
34.	関	〃　〃	高　橋　忠　三					B	
35.		〃　小石川工高	栗　原　　博		○	○	322	B	
~~36.~~		~~〃　〃~~	~~須　山　成　美~~						けがのため取消
37.		〃　〃	渡　辺　　昭		○	○	322	B	
38.		〃　田無工高	奥　田　幸　司		○	○	226		委　員
39.		〃　〃	岸　　久　雄		○	○	322	B	
40.		〃　〃	尾　又　　清					B	
41.		関　東　商　工高	大　内　道　男		○	○	322	B	
42.		〃	松　本　雅　晴		○	○	322	B	
43.		関　〃　高	岩　原　義　春		○	○	322	B	
44.		安　田　学　園高	安　藤　允　浩					B	
45.		〃	遠　山　時　幸					B	
46.		神奈川県向の岡工高	飯　田　三　郎						委　員
47.		〃	山　崎　敏　弘		○	○	226		委　員
48.		横浜市立鶴見工高	高　橋　清　一					B	
49.	東	神奈川県神奈川工高	山　室　　滋		○	○	227		主　査
50.		〃　〃	岩　沢　利　雄					B	
51.		〃　（定時制）	菅　原　　優		○	○	325	B	
52.		横浜市立横浜工高	林　　隆　利					C	
53.		神奈川県小田原城北工高	武　藤　松　雄					C	
54.		横須賀市立高高	佐　藤　克　己		○	○	227		委　員
55.		〃	三　浦　陽　助		○	○	227		委　員
56.		山梨県　峡南工高	小　坂　　洋	○	○	○	227		委　員
57.		〃　〃	渡　辺　英　夫	○	○	○	227		委　員

58		山梨県	甲府工高	小池舜一		○	○	325	C		
59.	関	〃	(定時制)	土屋健		○	○	227		委員	
60.		〃	〃	中田安秀		○	○	325	C		
61.		〃	北富士工高	佐藤久	○	○	○	325	C		
62.		〃	〃	小谷力仁	○	○	○	325	C		
63.	東	千葉県	市川工高	神保信行		○	○	326	C		
64.		〃	〃 高	朝倉義夫		○	○	326	C		
65.		〃	〃	阿部三朗					C		
66.		静岡県	沼津工高	米山和裕	○	○	○	326	C		
67.	東	〃	浜松工高	早川奏路		○	○	326	C		
68.		〃	日大三島工高	石川湿之					C		
69.		〃	修善寺工高	瀬戸朔司		○	○	326	C		
70.	海	〃	〃	沢村正紀		○	○	326	C		
71.		愛知県	愛知工高	小栗博		○	○	327	C		
72.		岐阜県	中津川工高	増倉忍	○	○	○	327	C		
73.		新潟県	新潟工高	景山常樹	○	○	○	327	C		
74.	北	〃	(定時制)	田中新一	○	○	○	327	C		
75.	陸	金沢市立工高		大野元義	○	○	○	327	C		
76.		石川県	小松工高	押野慶祥		○	○	327	C		

参加学校数　53校　　参加者数74名　16　57　56

建築学会九州大会に参加して

五十嵐　永　吉

九州大学で開かれた学会大会で、研究協議議題として「設計教育について」がとりあげられ、工高、高専、大学の諸先生から貴重な発表がなされ、うるところが多かった。

工高では東日本から私、近畿では奥山先生が選ばれ、私は先に分会でまとめた設計製図カリキュラムの現状と、48年度編成例についてのべてきたが、奥山先生から発表された「卒業設計の指導法」については、この夏休みに行なわれた学会の計画講習会で、今後社会では設計チームの編成が重要であり、学校でもグループによる設計活動などについて指導してもらいたいとの発言があったことと合わせて、非常に参考になるものが多かった。

工高の設計製図のカリキュラムの実状

五十嵐　永　吉

高専における設計教育のカリキュラム

藤　原　　勉

大学における設計教育の現状について

武　藤　　章

卒業設計の指導法

奥　山　清治郎

構造計画を設計教育にどうとりくむか

安　方　　啓

九州芸術工科大学における設計製図

美　川　淳　而

発表後の討論会の議題は、「設計は建築教育の総合化の軸となり得るか」であって、その答として

① 設計教育は、建築教育の中心となるべきである。

② 教育が多様化しているなかでの単なる一つの中心である。

の二様について、80名程の参加者で討議されたが、専ら高専、大学関係者の発言多く、その要旨は、内容も高度化し、多様化しつつある建築技術のなかで、これをマスターする技術者を養成するに当っては、いずれにしても年限が短かすぎる。教官定員に対して生徒数も多く、十分な

指導が行なえないので定員を少なくするし、また高度の技術をもつ建築家の数は少なくてもよい、予算を多くするなど、本題をはずれた行政的　の発言が多く、今後も引続いて研究することとなり、失望されることも多かった。

技術者の不足、質の低下がさけばれ、受けいれる生徒の学力低下もささやかれている現在、建築に対して無知の者を建築に興味をいだかせ、しかも期待され、自信のもてる内容を身につけさせる方法論についての討議が少なく、その具体策が述べられることが少なかったが、私どもは奥山先生から提示された指導法を参考にし、今後とも大いなる課題として絶えまざる努力を積みかさねていきたいものだ。

卒業設計の指導法概要

1　研究項目

(1)　卒業設計のシステム

(2)　卒業設計課題の期間

(3)　卒業設計指導法の具体策

a　課題選定の指導

b　テーマ設定の指導

c　資料収集の指導

d　資料の展示方法

e　実例建物の見学

f　グループ研究の指導

g　作業行程（製図）と評価

(4)　指導体制の検討

a　教員側の指導体制

b　教員と生徒との連絡の緊密化

c　評価方法

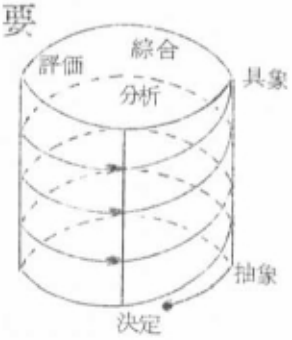


図　1

2.　卒業設計のシステム

図　2

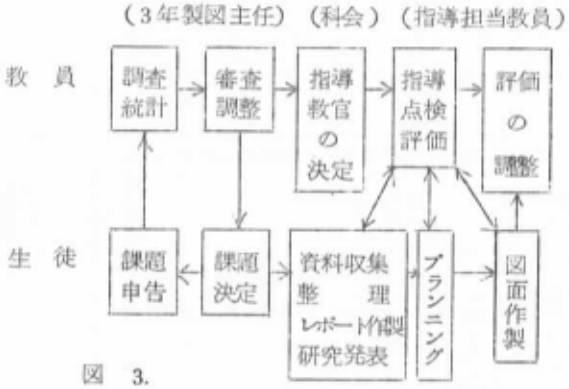


図　3.

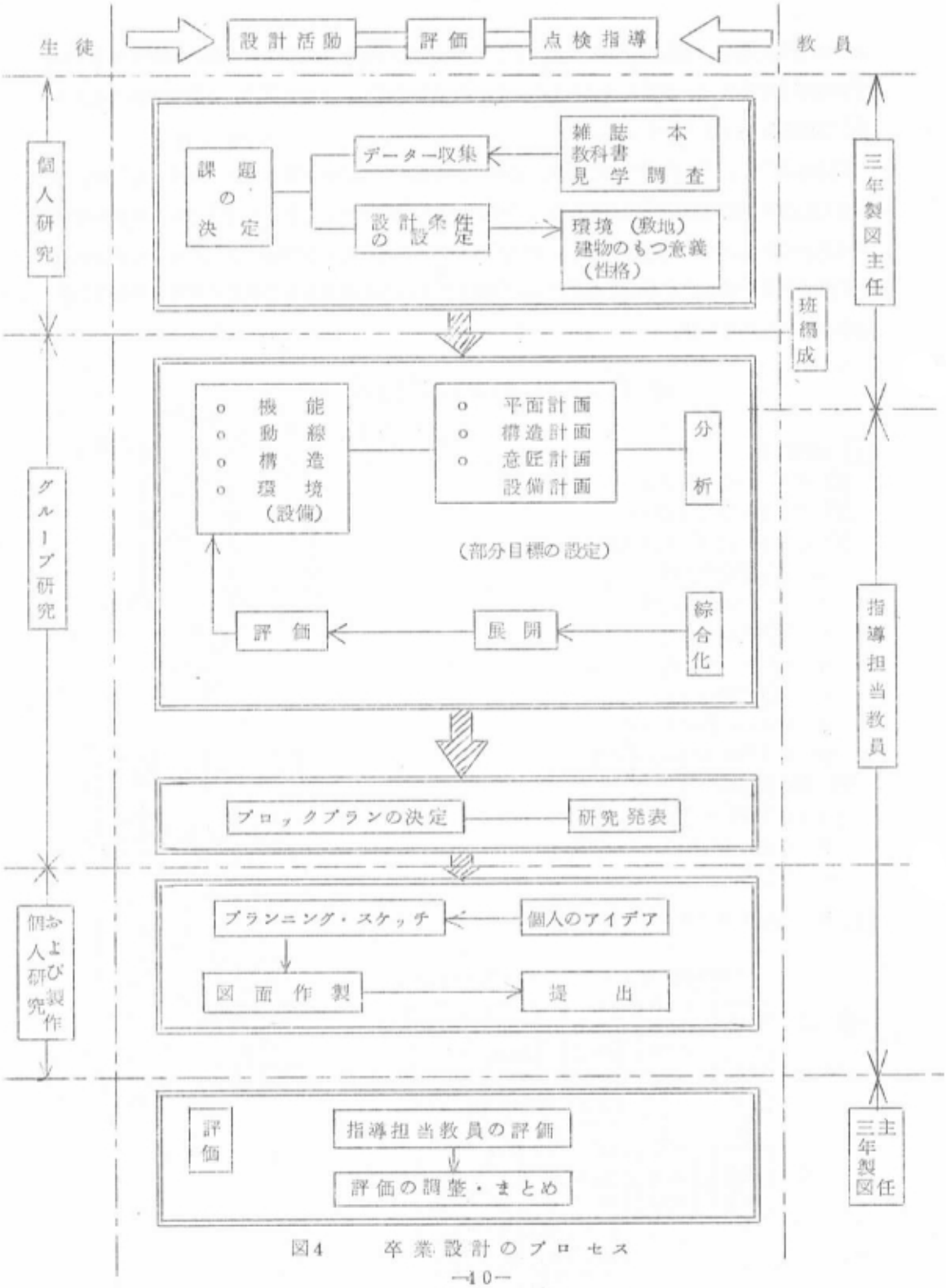


図4　卒業設計のプロセス

3. 設計課題選定の指導

表1　課題選定の条件

	第1年度	第2年度	第3年度
選定条件	設計課題を自由に選定	指定した数種の設計課題の中から選定	同主旨の設計課題の者でグループ編成
指導上の問題点	o 1人の教員が数種の課題を担当し指導の濃度がうすくなる o 課題を変更する可能性が大きい。	o 担当の課題がしぼられ指導の濃度が濃くなる。 o 指定課題を否定し枠を越える者が出る可能性がある。	o グループに対する指導となり密度は濃くなるが個性を弱める可能性がある。 o 予備指導により課題の変更が殆んどない。

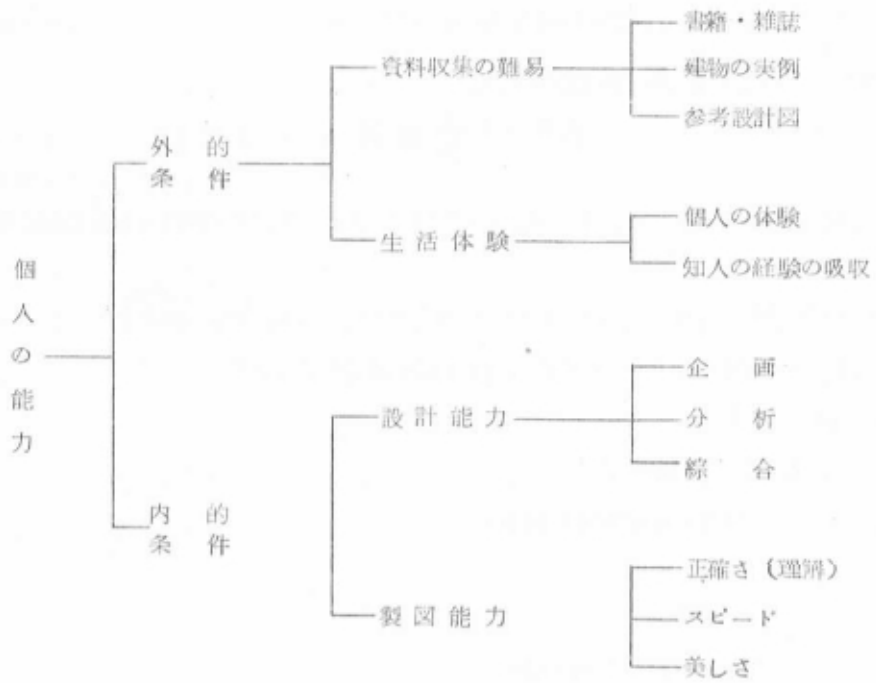


図5　個人の能力

『ニュース』

◎　施工実習研究会８月２・３・４日に開催

建築実習の中で、各校とも悩みの種になっている施工実習について、実習部会が中心になり、８月２日・３日・４日の３日間、神奈川県横須賀工高を会場として開催され、約７０名が参集し、酷暑の中で各種の施工実習に取組み大いに研究会の成果をあげました。詳細は実習部会報告を参照して頂きたいと存じます。

◎　定時制教育課程研究会を開催

新学習指導要領に基づいての定時制の教育課程の編成、あるいは製図・学習の指導法、クラブ活動など、定時制独自の問題点を取上げ研究会を開催し、これらの点について協議を頂きました。とりあえず７月中旬に首都圏の定時制の先生にご参集を頂き、９月下旬には会員に呼びかけ、約２０名の参会を得、各種の問題点について終日熱心に協議をなされました。いろいろな資料が参加校の先生から頂きましたが、頁数の関係で割愛させて頂きます。

◎　昭和４８年度総会
茨城県で６月１・２日に

４８年度総会の研究協議会は６月１日（金）・２日（土）、茨城県下で開催されることになりました。

茨城県には水戸工高、土浦工高の２校に建築科が設置されており、両校の校長先生はじめ科の諸先生も張切って計画準備中です。概要は次のように企画されています。

第１日　（６月１日）

会場　：　茨城県土浦市

総会・研究協議会・分科会

第２日　（６月２日）

研究協議会

見学会（鹿島工業団地）

◎　教材

『プレハブ建築・鉄筋コンクリート造』完成も間近

今春より作成を開始した、表題の教材映画は、本研究会教材委員会より委員を選出し、作成に努力を重ねてきましたが、１１月下旬には完成することになりました。映画はカラー、約２０分にまとめてあります。いずれ工業高等学校長協会からご案内があると思います。

またこれと姉妹編の「木造」「鉄骨造」は、既刊になっており、ご希望の学校は校長協会にご連絡下さい。

◎　施設・設備基準の改正案（第２次）について

施設・設備基準の第１次改正案は今春の秋田総会の節に、副会長より説明・報告があったとおりですが、その後、全国工業高等学校長協会で検討され、他学科との関連などを考慮して、現行基準に基き、設備については、現行基準の約４倍、施設については、１.５倍程度の基準改訂案を作成し、今後、文部大蔵両省に現在の学校施設・設備の現状と学習指導要領の改訂に伴う、施設・設備の充実を要望することになりました。

本研究会でも、改訂委員、分科会主査の方にお願い、検討を加え、第２次案を作成し協会の方へ答申しておきました。第２次案の総計は、施設については２.８２０㎡、現行の約１.５倍、設備は約１億２千万で約４.２倍になっております。

◎　ワークブックの改訂・編集について

研究会の教材委員会刊行のワークブックも各種にわたっておりますが、今回の学習指導要領に伴い、改訂あるいは新規に刊行を考えなければならない時点に達しております。

委員を中心に改訂および今後の方針について協議しておりますが、ワークブック刊行についてのご意見・ご希望がありましたら、是非とも、事務局あるいは、下記宛お願い致します。

東京工大付属工業高等学校
（東京都港区芝浦３－３－６）
五十嵐　永吉　宛

あ　と　が　き

例年、ニュース価値のない「建築ニュース」になっております。今年度は少しでも早くと云うことで、秋の研修会に何とか間に会わせることができました。今後も遅くとも、この程度の線を確保したいと思いますので、皆様方の御協力をお願い致します。

また、今年度発行を早めた関係上、編集部の多少の手遅れと、五十嵐先生、建築学会大会研究協議会発表の準備が重なったため、製図分科会活動報告の代りに、協議会の概略を載せました。

本号は、主として、この夏休み中に行なわれました、実習分科会の研修会についての報告を載せました。

各地方、各学校でもさまざまな研究活動をされていることと存じます。どうぞ、それらの資料を、このニュースに発表して載けますよう、お願い申し上げます。

昭和４７年１１月

都立　田無工高
編集事務局
〃　小石川工高